

みどり さと ほな い
緑の里・保内地区
 (新潟県三条市)

- 計 画 期 間 平成 22 年度～平成 26 年度
- 面 積 451 h a
- 交付対象事業費 1,439 百万円
- 市人口 96,517 人

ポイント

「地域特性を活かした市民・観光客の交流拠点の創造」

地区概要

緑の里として、自然環境や植木産業といった地域特性を活かしたにぎわいのあるまちづくりを進めている。

目 標

地域産業の振興促進を図るとともに、新たなニーズに対応した観光メニューの充実を図る。

指 標

観光交流拠点の整備により、植木産業の売上額の増加を図る。

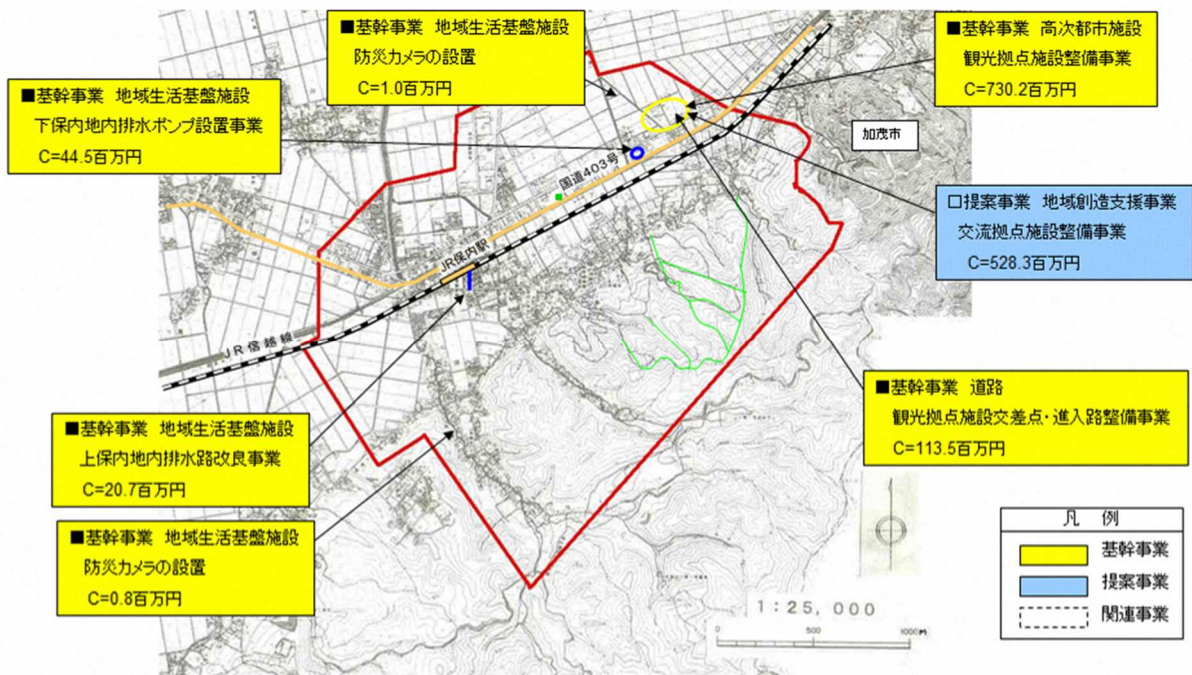
観光交流拠点と連携し保内公園の利用者数及びオープンガーデン巡り参加者数の増加を図る。

植木産業の売上額	3,925 万円 (H21)	→	4,320 万円 (H26)
保内公園利用者数	71,110 人 (H20)	→	74,700 人 (H26)
オープンガーデン巡り参加者数	162 人 (H21)	→	200 人 (H26)

事業内容

基幹事業 (910.7 百万円) → 観光交流センターの新設整備、排水路改良、排水ポンプ設置、防災カメラ設置。

提案事業 (528.3 百万円) → 交流拠点施設の整備。



地区の現況と課題

保内地区は、県内有数の植木産地であり、その植木の品質とともに卓越した造園技術は県内外から高い評価を得ている。また、自然の地形を活かして整備された保内公園は四季を通じて緑とのふれあいを楽しむことのできる憩いの場として親しまれている。「保内公園まつり」のイベントの中で、オープンガーデン巡りと里山散策には予想を超える参加があり、市民の緑に親しむ気運の高まりがうかがえる。

このような状況のもと、地域産業が衰退している中で、植木産業の振興、緑あふれる自然環境を活かした観光・交流のより一層の振興、オープンガーデンの利活用や里山散策などの新たなニーズへの対応、保内地区へアクセスするうえで重要なJR保内駅及び国道403号の降雨時の浸水対策といった緑の里として発展していくための更なる基礎づくりが求められている。



保内公園 緑の相談所



保内公園 熱帯植物園温室

提案事業の特徴

交流拠点施設整備事業

様々な樹木の造成し地域の特色である植木をテーマとした交流拠点施設を整備するとともに、施設完成後周辺施設の保内公園や色々な庭を見学するオープンガーデンと連動した事業を展開し植木産業の振興を図る。



保内公園 花木園

計画策定プロセス

都市計画マスタープラン

「豊かな自然に恵まれた 歴史と文化の息づく 創意にみちたものづくりのまち」を都市づくりの理念として掲げ、市民を交えた策定委員会で都市計画マスタープランを策定した。保内地区においては、自然的な地域資源を活かしたレクリエーション拠点づくりを目標としている。

観光基本計画

「旅人が旅人を呼ぶ地域ぐるみのもてなし観光」を理念として掲げ、市民を交えた策定委員会で観光基本計画を策定した。保内地区においては、「植木の里」として位置づけ、散策コースや植木・苗木の販売所を設けて観光資源化を図ることとしている。

観光交流センター検討会

地元と三条市では、先進地視察を行うなど、具体的な事業の方向性・内容などの検討を行ってきた。



オープンガーデン巡り